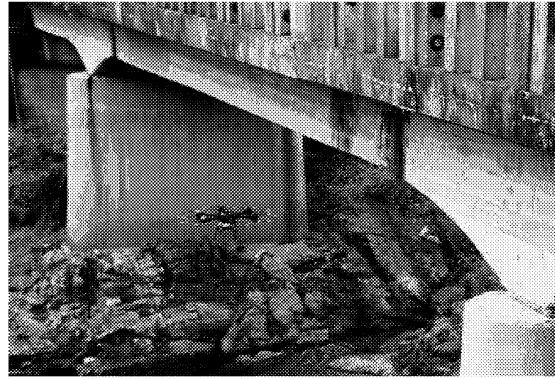


ドローンで橋梁点検

大津市が実験、費用3割減



カメラを搭載したドローン
で橋桁の下などを点検（22
日、大津市の富川橋）
国土交通省は2月に道
路橋の点検要領を改
正し、目視だけでなく、ド
ローンなどのカメラの活
用が可能になったが、導
入は進んでいない。実験
に立ち会った専門家は
「実証実験の情報発信に
よって、新技術の普及に
弾みを付けたい」と話す。

大津市は22日、ドローンやロボットカメラを使つた橋梁点検を実証実験した。実験に使つた富川橋は長さ33m、桁下3mのコンクリート橋。河原

から飛ばしたドローンが10分程度、橋桁の下や横でホバリングや移動を繰り返した。河原に固定したボールを伸ばして高い位置を撮影するロボットカメラも、作業者がタブレット端末で操作性を確認した。ドローンやロボットの活用はコスト削減や期間短縮、安全性向上によつて、橋梁点検を効率化する狙いがある。大津市によると、長さ100mの橋の点検費用は通常630万円だが、新技术の活用で3割以上削減できる。期間も夜間4日分から半減が見込めるとい

う。大津市は橋梁1003力所を管理する。2011年4年に5年に1度の点検が義務化され、全ての橋の点検が一巡した。今回の大津市は橋梁1003の実験を検証したうえで、20年度以降に新技术の本格活用を探る。5年間で3億9千万円だった点検費用の削減を目指す。

国土交通省は2月に道路橋の点検要領を改正し、目視だけでなく、ドローンなどのカメラの活用が可能になったが、導入は進んでいない。実験に立ち会つた専門家は「実証実験の情報発信によって、新技術の普及に弾みを付けたい」と話す。橋の下は風が強く、乱気流も発生しやすいため、今回の実験ではドローンの操縦性の確認が焦りだつた。今回使つたデノンソーラー製（直径1・5m）は6つのプロペラがそれぞれ角度を変えて姿勢を安定させ、センサーで橋への衝突を回避する機能を持つといつ。

ドローンやロボットの活用はコスト削減や期間短縮、安全性向上によつて、橋梁点検を効率化する狙いがある。大津市によると、長さ100mの橋の点検費用は通常630万円だが、新技术の活用で3割以上削減できる。期間も夜間4日分から半減が見込めるとい